

平成28年度第4回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 **開催日時** 平成29年3月10日（金）午後2時から午後4時まで
- 2 **開催場所** 鎌倉市役所第2委員会室（本庁舎2階）
- 3 **出席者** 猿田会長、常盤委員、山本委員、村田委員、郷原委員、廣瀬委員
池貝委員、小田委員、亀山委員、川口委員
- 4 **事務局** 石井環境部部長、佐藤環境部次長、戸川課長補佐、澁谷職員、大野職員
- 5 **議題** 1. 鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画の見直しについて
2. その他

6 配付資料

（当日配布資料）

- ・資料1-(1)-1 エネルギー実施計画（改訂案）
- ・資料1-(1)-2 エネルギー基本計画及び実施計画改訂案に対する
市民等意見及び市の考え方

（当日貸出資料）

- ・第3期鎌倉市環境基本計画
- ・鎌倉市エネルギー基本計画
- ・鎌倉市エネルギー実施計画

7 会議内容

出席人数の確認後、配布資料の確認を行い議事に入りました。

議題1 「鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画の見直しについて」

猿田会長 それでは議題に入ります。「鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画の見直しについて」事務局から説明をお願いします。

澁谷職員 議題1「鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画の見直しについて」説明。

猿田会長 ただいま「鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画の見直しについて」説明がありました。ご質問、ご意見はございますか。

廣瀬委員 今日提出の資料1-(1)-1 エネルギー実施計画（改訂案）なのですが、市の取り組みのところはわかるのですが、市内事業者による取組って全部を言いきっている訳ではない気がするので、取組事例のような形でされたらどうでしょうか。もっと取り組んでいる事務所もあると思います。その辺が気になりますのでお願いしたいと思います。

猿田会長 例えば何ページですか。

廣瀬委員 P98以降、今回追加になったところで、例えばということでP100とか、事業

者さんがいくつか出て来て、こういうことをしていますよと記載があります。詳細調査したわけではなくて、ワークショップですとかホームページの意見募集から拾ったことであれば、他に省エネ対策している、再生可能エネルギー導入を図っている事業者さんもあると思うので、ここは取組事例という紹介の仕方にしたらどうかということです。

猿田会長 例えばP100のこういうところですか。

郷原委員 全体です。これが事例だということを但し書きみたいに必要ではないかということでしょう。

戸川補佐 見出しの部分を取組といきるのではなく、取組み事例として補うということですね。

澁谷委員 こちらに記載した経緯を説明という形で、こういうところからご意見を頂きましたとか、こちらの事業者さんから意見を頂くに至った経緯までを記載したいと思います。

廣瀬委員 補足させて下さい。例えばLED化なんていうのは、全館やりましたというのはいっぱい事業者があると思うのです。そういう意図です。

猿田会長 P100、P101などは事例として使えると思うのだけど、P98、P99は事例という内容ではないですね。

廣瀬委員 民間事業者さんがやっている、例えば、P100、P103のタイトルに市内事業者による取組と言い切っているんで、これは取組事例とした方がいいでしょという意味です。そういつているわけなのでP98のことを言っている訳ではないのですよ。

猿田会長 事務局、そこは明確に整理しておいてください。

村田委員 市民の意見から言わせて頂きます。P80家庭からできることのコラムと、資料1-(1)-1 エネルギー実施計画（改訂案）P102の東京ガスの「ウルトラ省エネブック」のことですが、この2点、取り組みやすい事例を紹介するのはすごくいいなと思います。私もひとついいところを見つけましたのでアイデアとして紹介させていただきます。川崎に東芝未来科学館というところがあり、是非行っていただきたいなと思いました。子ども向けの施設で、無料で入れるところです。東芝さんがやってらっしゃるのですが、ゲームをしながら楽しく省エネの仕組みが分かるのです。例えば、映像で省エネのエアコンが流れてきて、そこをジャンプしてタッチするとパッと光になって省エネポイントゲットというわけなのです。それが何個も正解すると、「おうち全体でこんなに省エネになったね。おめでとう。」となり、子どもは面白いだけなのですが、それを見ている親とか小学校5年生ぐらいは、「製品を買う時点でおうちが省エネになって、辛い努力やストイックな生活をしなくてもそれになるのね」と、楽しく学べてすごくいいなと思いました。他にも横須賀市さんの夏休みのイベントに親子で行ってみてはいかがですか、のようなコラムをしたり、実際に講座をされたりするとすごくいいと思います。押しつけがましくなく、楽しく学べると思います。それが1つです。あとはP99の表とP109の2つの表で、省エネ行動を促すための施策が書いてある部分なのですが、私がす

ごくいいなあと思っているのは、ワールドカフェという企画を環境政策課さんでされていて、それがこの中のどこにはいるのかちょっと伺いたいところです。ワールドカフェなどのワークショップはこの中のどこに入っているのかを確認したいのです。もし含まれていないのであれば、市民の意見を取り入れるワークショップ的なものを表に入れていただけるとありがたいと思います。

澁谷職員 25年度、26年度に環境政策課で開催いたしましたワークショップはこちらの事業に入ってくるというよりも、この元の冊子のエネルギー基本計画、実施計画を作成するために最初に開催したということになっております。ですので、例えば今後同じような企画を、啓発を目的に続けていきたいと思いますという形であると、今日お配りした資料で言うと、子ども目線がメインに書いていますがP114でしたり、また別のページで申し分けないですが、P104の表の中で一番下の⑤エネルギーの効率的な利用の普及啓発でしたり、そういう情報啓発していきますよというのを基本方針毎に唱っているのです、そこに入ってくるのかなと思います。ただワールドカフェを毎年開催するというような形で習慣化するのは良くないかも知れませんが、かなりご好評いただいて毎年やるような取り組みになってくるとワールドカフェだけ特別に扱ったり、この中ではっきり啓発としていきますよという風が変わってくるのかなと思います。

猿田会長 基本計画の方でP54になるのだけれど、ワールドカフェでこういうことやりました。ご意見を頂戴して計画の中に反映しましたとっているからね。むしろ基本計画などを改訂するときには市民の方々のご意見を頂戴してその中にご意見として入れて行こう。実施計画の中の部分もあるかもしれない。発言の中にはもちろんあるわけですけども。計画の見直しの中でいろいろご意見を頂戴したものであるから基本計画のほうで整理されているのです。P54、P55のところそういう形になっている。どこに入れなきゃいけないというわけではない。

村田委員 何が言いたいかというと、とてもいい取り組みだと思うのです。市民の立場から10年前くらいに広報かまくらをつくる仕事をしていて15年ぐらい前からずっと変わらないなあと思っているのです。市民が意見を言った熱い思いを活かして実際に行動してくれたかどうかをモニタリングして次に活かしていくような仕組みを作って行かないとたぶんまた20年経って市民は覚えてくれないね。変わらないね。となってしまうのか懸念されることです。講座を開催します、以上、ではなく、市民自身を動かすので構わないので、「市民の意見をこのように活かしていきます。」と文言が入っていくとこれから計画が実際に動いていった時に、市民も動いて数字が実際に変わってきたね。と結びつけられるかなと思うのです。市だけではなくて、市民の意見を活かして省エネ活動に結び付けられる仕組みがどこかにはいるといいなという希望があります。

川口委員 P61の省エネ行動アンケートですが、これをやられたのは2月の省エネ月間で、回答者数が9名で、その回答がそのまま載っています。もう少しワールドカフェとか連携たりとか、パブコメでもっとたくさんの人から聞くチャンスが同じ項目だったらもっとあると思うのです。これはおそらくたまたま本館ロビーでやったので興味を持ってく

れる人が回答してくれたものだと思うのですね。今さら言ってもやや遅いですが、もう少し情報を得るためだったら工夫の仕方があるのではないかと思います。デジタルで聞いたりすれば、もっといろんな知恵とか実態がわかると思うので、少し唐突な感じがしました。

猿田会長 9人は少ないかな。これはこれでご意見ありましたとまとめるのはいいけれども、これからの参考としてはちょっと反省して検討して下さい。

山本委員 P81の表4-2「家庭での省エネルギー効果推計」この表先ほど並び替えをするという話があったのですが、せっかく一世帯あたりの節約金額がでているので、合計を出して欲しいなと思います。全部でいくらという合計を一番下に記載していただければと思います。

猿田会長 それは難しいです。

山本委員 それと全世帯が取り組んだ場合の省エネのポテンシャルの合計の数字はどれくらいかいていただければと思います。というのが一点です。それと上の数字は1年ですよ。年間というのをどこかに明記してほしい。あとエアコンは普通の家庭では数台あると思うので何台と入れてしまったほうがいいのかと思います。

猿田会長 全世帯は難しい。ですからなおさら合計の根拠が不安定になります。

山本委員 もちろん大雑把でこれ位の効果があるんだよと言ったほうがいいのかと思います。折角書いたのですから一個一個見てやろうかなと考えるか、全体としてこんなになるのかと見えるといいかなと思いました。

猿田会長 全世帯でやってくれるとは思っていません。まず全世帯で対応するというのは不可能ですよ。数値だけ大きく出してこれだけになりますよとしても、実際にはできないことです。各世帯で対応して下されば、ご家庭でこれだけ省エネに協力して頂けますよということで、市全体というのはまた別の話です。ここで言っているのはできないもので合計して数字出してもその根拠と言わせても困ってしまうことにならないかな。エアコンにしても2台あるか3台あるかわかりませんよね。普通の家庭でどのくらいの対応が出来るのかというのがせいぜいではないかと思うのですが。これは個人的な考えなので、事務局のほうで行政の施策上どうするのか決めてください。

小田委員 今のお話でやっぱり、エアコンを持っていてガスファンヒーターなど全部持っていてという家庭は少ないのではないかと思います。そうすると足し合わせた数字の持つ意味がはっきりしないということになって、掲載する意味がないかなと思います。多分全部足し合わせるとものすごい省エネ量になると思います。それってホントかな、って話になる。恐らくそれは無いと思いますので。

猿田会長 実際にはその数字はまずできません。家庭でどれだけ協力して下さるか、どれだけ対応できるかを示すのが正解だと思います。市全体でこれを全部使ったってことはあり得ないので。

佐藤次長 目標値との関連で、例えばこれを全部足してそれで達成できるというふうに見られてしまうのもちょっと問題があるかなと思うのですが、実際に電気カーペットとか

持っていて使わないからそれだけ消費が減っているかといわれると決してそうではないと思いますので、合計数字を下に出すのは計算式ですから出せるのですが、その意味合いがというところまで行きますと、意味合いが薄くなってしまいわかりづらいかと思いますので、誤解を招かないという点でもこのままにさせて頂ければと思います。

猿田会長 ほかにどうぞ。

小田委員 二つあります。一つは事前配布資料のP77図4-4「鎌倉市の部門別エネルギー省費量の推移」のところですが、上の文書は前回と同じなのですが、上から3行目で「約2割弱くらい産業・業務部門は省エネが進んできた。」と書いてありますが、グラフを見ると確かに産業部門は減っているのですが、業務部門は必ずしもそうとは言えないと思います。ここは正確ではないと感じました。実際には業務部門はほぼ横ばいだとグラフを見て感じました。それからもう一つ、P82エネルギーの地産地消のところを書いて頂きました。とてもいい取り組みだなと思っていてぜひ進めていけたらなと個人的には考えています。そのためにP83の右下に今後の取組とあるのですが、ここに書かれているのは、ステークホルダーの中で情報交換をし合って機能を高めましょうということに大事だということに加えて、市内から出てくる剪定材の量がどのくらいあるのか、公園についてはどのくらいあるのか、エネルギー需要が建物ごとにどのくらいあるのか、具体的なエネルギー量を把握することから始まると思っているのでそんな取り組みも加えて頂けたらなと思います。

猿田会長 先ほどのP77のグラフのところの業務部門のところ、これは一般論としてあまり減少してないということや、都会では、むしろ上昇しているのもある。表現を工夫してください。

澁谷職員 はい。

池貝委員 前回の審議会の時も意見を述べさせていただいたところですが、今のお話にも関連するのですが、業務部門系の削減というのは、私は必要だと思っていてそれがちょっと弱いと発言をさせていただいたけれども、P99に結果的には前回と同じで実施部門でご判断をされたのならそれはそれで仕方のないのかなと思うのですが、前回の資料からプラスα出来なかった理由とかそのあたりの検討の経緯とかあったら教えて頂きたいなというのが一点。もう一つはP110の一番下「①病院及び社会福祉施設等への再生可能エネルギー等の導入働きかけ」のところでは前回の資料だと「雇用の促進」となっていて計画を決めるというような書き方になっていたかと思うのですが、今回それが後退の感があるかな。そのあたりの理由を教えてくださいなと思います。

澁谷職員 先に今日お配りした資料のP116からご説明させていただきます。こちらは鎌倉市の地域防災計画という災害時の計画と連携して内容を詰めて参りました。その中で神奈川県と市の役割分担というのが実際ございまして、その中で災害拠点病院を設定するのですが、その辺の整備は県の仕事ということです。鎌倉市内には災害拠点病院というものはございません。ですからその一段下に災害拠点病院にならないような病院に対してどうやっているのかということで、環境政策課では独自に病院の経営者の方に再生可能エ

エネルギーの設備を導入してみませんかという話をしたり、そういう形でやってきたところなのですが、もう少し強い働きかけが出来たかという、現状の見通しが立たないので一歩引いた表現になりました。それから業務部門のお話ですが、来年度に向けて、事業として何らかの形として、先ほどのエネルギーの地産地消の最後のところにもかかってくるのかなと思うのですが、実際に業務部門の方たちができることというのは、まず話し合いからしていきたいと考えています。来年度そういう予定を立てているのですが、それが現実にはどういう施策になるのか、事業になるのかがまだ見通せない、非常に書き辛いので実際この事業のところに落とせていないということです。例えば、中でももし事業者さんが再生可能エネルギーではなく省エネを頑張ろうということになれば、省エネと一緒に頑張るという事業がこの中に入ってくる可能性もありますし、再生可能エネルギーをもっと導入して行こうという流れになれば、その意を汲み取って市の方も再生可能エネルギーを導入して行くような事業をこの中に組み込んで行けたらと考えています。

池貝委員 今のご説明で取り組みについてよくわかったのですが、このペーパーに反映させるという意味ではなくて、私の意見ということで述べさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。鎌倉市の場合では、事業者対策というのはやはり小企業とか店舗とかそういった対策になるのかなという気がしております、そういった場合は再生可能エネルギーの導入というのはなかなか難しい。まず、最初に取り組むべきは省エネであって、具体的に省エネとはどういうものかという市もやりづらいし、事業者さんもやりづらいというのが現実問題なのかなと思います。一方県の環境計画課では中小事業者の省エネルギー診断をやっていまして、県は県で地元の中小事業者さんの意向というのを汲み取りにくくて、なかなかうまくマッチングできず、省エネ診断が出来ないという状況です。一方基礎自治体である市におかれましては、財政的に診断化事業というのは予算化するの難しいけれども、地元の事業者さんの様子は県より、よりわかっていると思うのです。ですので、例えば、県のやっている省エネ診断事業は今後何年か続いていくと聞いていますので、そこに地元のどういう事業者さんを県の事業に送り込むか、そういう形で市の事業という形だけで考えずに、視点を広く持って中小事業者さんの課題みたいところを、別の実施部隊みたいところに打ち出していくみたいにつなぎの部分が、P53に書いてあるようなコンシェルジュ的な役割というのが多分こういう事なのかなと個人的にはそんな風に考えています。ここにすぐに盛り込むというよりも、そういう視点で中小企業対策というのを今後考えて行かれたらいかがかなという提案です。

猿田会長 今、県のお話がありましたが、県と市町村は方針が全然違うのですね。県は直接県民とはいいますが、住民の方と接触することはないわけであって、総合的にどうまとめていくかということで、県側が地域の各特性にマッチしているか難しいですよ。結局平均値的なものしかでてこないのです。その辺に難しさがあり、その辺をどうくみ取って各自治体や市町村が地域特性を活かしてそれを取り入れるとすればその中にどう入れていくか。県がこういったからこうやらなくてはいけないというのは、必ずしも当

たっていない。市町村ごとに計画するほうがマッチングするわけで、特性を活かすこともできる。県は平均値しかものを言っていない。いつも問題になるのですが。特別に大きい問題は別ですけど、その辺を使い分けていかないとなかなか県の方針をやらなくてはいけないといっても、地域に合わない場合だってありうる。そういうときは適切な判断をしながらやらなくてはいけない。国はなおさらです。今の貴重なご意見でした。他にご意見をどうぞ。

山本委員 今回P3、P4に概要を入れて頂きありがとうございます。分かりやすくなった分だけ、ちょっと気になったのが、目標を二つ設定しているのですが、市内の年間電力消費量に関して、どうして電力に集中して考えたのか、P36にエネルギー消費量の内訳がありますが、基本計画を作ったころ電力が一番消費が多くて、一番大きい物を削減していくと思っていたのですが、P36を見ますと、平成26年には石油が一番になっています。石炭は消費量も増えているし、消費エネルギーの占める比率も増えている。電力は全体の消費も減っているし、比率も下がっている。そうなってくるとやはりもともとスポーツが平成42年までなので、そろそろ電力だけではなく、石油とか石炭を減らす目標を設定し直していかなければならない時期なのかな。こう目標が2つ出てくるとどうして他のはいいの？と思う人もいるのではないのでしょうか。今回は無理にしても次回はお一つぐらい目標にそういうものも入れたほうがいいのかと思いました。

猿田会長 これから石炭云々はおそらく使えなくなりますからね。対応としてその位置は占めないだろうと思いますが、その前に電力とおっしゃったがデータとしての確に掴めるのは電力だけで、旧電力会社だけが的確に把握できたのです。後は大きな都市ガス関係。今は電力も顧客情報だからデータ出しません。どうやってデータを的確に把握するかというと国レベルでないと出来ない。あとは人口で割っていくか。実際にはどういう対応をしましょうかってことなのです。どこまで正確なデータが把握できるかということなんです。意見として承っておきます。ただどこまで見直して入れていけるか。石炭も斜陽産業です。今、中国はすごいですが。石炭火力発電の火力としての節電はある。今、逆に火力発電所を作ろう。石炭が一番安いから火力発電所が増えています。そういう意味では石炭が無くなることはないと思います。民間一般家庭の使用量は減っています。電力としてはアセスメントにかからない程度の規模で14万9千キロ、15万だとアセスメントやらなきゃいけないので14万9千キロで出してきた企業ありますけれど、地方の発電所で。

郷原委員 電力についてはスマートメーターが入ってきているので、いろいろな会社が入って来ても、地域ごとの集計っていうのは出来るってことはないのですか。

猿田会長 自由化で、中部電力さんを使っているとかは全然わからないんです。ですから国は全体として把握しています。経産省は把握できるので。地方でどこまで把握できるか。どう事務局、難しいんでしょ。

澁谷職員 現状電力会社さんから言われているのは顧客情報なのであまり流したくはない。今後法律が改正されれば出さなきゃいけないとかそういうことが無い限り、同じような

データを継続して出していくかはわかりませんと言われていました。

猿田会長 他の自治体さんもお手伝いしているのですが、答えはみんな同じことです。だいたい3年前の26年だと経産省のエネルギー庁などが出した、うちはこれ位使ったはずだというのはあります。

澁谷職員 これからは按分になっていく可能性があります。

猿田会長 きわめてアバウトです。亀山先生その辺なにかご意見ありますか。

亀山委員 内容ではなく体裁のことです。P37図2-14 エネルギー種類別年間消費量がこれはこれで見辛いので、ご検討下さい。次がP38図2-15 縦軸が右と左とで単位が違うのですが、単位が記載されていませんで、記載していただいたほうがいいかなと思いました。最終段階ですごく内容の追加をご提案するのはどうかと思うのですが、つらつらと斜め読みしてみて、最初に鎌倉市は古い家が多いですね。築30年以上の家屋が7万の家屋のうち3万が古いものだということがP32にありますね。今、鎌倉市だけではなく全国的に民生部門の排出を減らす取り組みが遅れているのが住宅の断熱部分なのです。窓ガラスとか家庭の部分の断熱とか、これはいったん作ってしまった家に付けるのは難しく、お金はかかるけれども補助金を利用してできるだけ断熱のものを建てておいて、暖房をしないでも暮らしていけるようなリフォームをとというのが、全国レベルで言われていて、これがあまり強調されていないことに今さらながら気づいて、若干P96ページのコラムのところに書いてくださっていますので、コラムだけにとどめておくのではなく、基本方針の低炭素まちづくりかどこかに表現して頂くといいのかなと思います。ちらっとは出ているんですね。新しいP113の㊸など上の方に項目としては挙げてくださっていますので、貴重だとは思いますが追記頂いたらいいと思います。

猿田会長 そこは工夫できるよね。他に何かありませんか。

廣瀬委員 質問ですが、実施計画は最低3年に1度見直し、3年間取り組むのだと思うのですが、その中で目玉というものはあるのでしょうか。ちょうど市の実施計画と同じ計画年度になるのだと思うのですが、たまたま29年度が初年度なのですが、実施計画の重点事業にはエネルギー系の表記が出て来ないですね。そのへんはどういうふうに捉えているのでしょうか。ここにあるのは経常的にやっていく仕事なのであって全体が重点なのかそういうことなのか。その辺を具体的にアクションしていくのは29年度からなのか、3年間これでいくわけですからそこをちょっと教えて頂きたいのです。

戸川補佐 先ほどリーディングプロジェクトの事についてご説明をしましたが、前回の審議会でご意見を頂いてP21の最後のセンテンスに、庁内組織であるエネルギー施策委員会において鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画の具体的施策の中から特に重点的に取り組むべきものを選定しリーディングプロジェクトとして推進しますと記載して、今後リーディングプロジェクトについては年度のなるべく早い時期の7月とか8月ぐらいにエネルギー施策委員会を開いて、今までやってきた例えばLED化とかそういったものについてどこまで、市役所の中でもそれぞれの課の中でそういった事業を行っているのか、環境政策課だけではないので実施している課の中に入って後どれだけLED化をやる余地

が残っているのか、その辺を分析して次の年度の予算に反映していけるような仕組みを行っていけないだろうかと考えているところです。

廣瀬委員 そうすると総合計画実施計画では新年度で1144億円ぐらい組んでいるのですがその中に環境系の重点事業は今はない。お示しの実施計画の中から庁内組織でどれをやるか決めて行こうということですか。確か重点事業の中で産業振興の中で市内に立地する会社に対する助成ってあったと思うのですが、県内で全体がやっている訳ではないのですが、環境保全関係のエネルギーも含めてそれを改善する場合の補助金とかに取り組んでいるはずなんです。P110にちらっとは書いてあるのですが、担当課から聞き取って、もう少し目立つような形で扱って見たらどうでしょうか。間に合えばですが。以上です。

猿田会長 ご意見として頂いておきましょう。

村田委員 P81の「家庭での省エネルギー効果測定」の表ですが、年単位か月単位かパッと見てわからない。たぶん年なのだろうなと思って見ているんですけど。年単位とか書くといいと思います。さらに下から2番目の「部屋を片付けてから掃除機をかける。」というのが直接省エネに結び付くのかよくわからない。何度もスイッチを入れたり、切ったりするのが省エネになるのか。それともいったん掃除機をかけたのに、切って掃除機をかけたか分からなくてもう一度かけるのが効率が悪いのか、そういうことで省エネになるのかそのへんがわからないなと思って。付けたり消したりなのか。そこに「一度に」とか入れるとイメージが湧くかなと思います。スイッチを入れたり切ったりすることで電気がかかるのかなと想像したんですけど。エアコンは何度かやると電気がかかるのか。掃除機もそうなのかな。

澁谷職員 これは省エネルギーセンターの資料を前回から使っているのですが、省エネルギーセンターは国の外郭団体のセンターですが、それを加工して設置しているのですが、その加工の段階ですぐにこの表を組み替えられなかったので、実は色々な計算をしてこの表を作っているの、表を作り直す中で表現についてもちゃんと確認して一つ一つの取組みが具体的にどういう取り組みなのか読んだ方に伝わるような形に書き直して記載したいと思います。

村田委員 市民の方もその方がやろうかなと思うと思います。もう一つはP83の一番下の「ステークホルダー」という言葉の意味が私はわからなかった。この章の一番最後にあってなんか意味がわからないな。想像するに主体みたいなことなのかわからないので、書き直すか、なくてもいいなら消してしまうか、わかりやすい表現になっているといいなと思いました。全体最後に語彙集を付けられるならそれでもいいですし。他にもP73にも一番上のBDFというのが私にはわからなくてこれは何のことなんだろう。とそのまま読み飛ばしてしまったんですけど、分かりやすいところに括弧書きをするなり、最後に語彙集を付けるなりすると読んだ方がわかりにくくないと思います。

猿田会長 用語集は入っていないのですか。

澁谷職員 今回、新しく記載したものも含めて、用語集と一緒に掲載する予定です。

猿田会長 わかるようにいれてください。

佐藤次長 後ろに記載がある旨もわかるような形でマークを入れるとか工夫をしてみます。

猿田会長 かつこして何か入れるとか工夫すれば分かりやすいですね。他にありますか。

池貝委員 事前に配布された資料のP110、基本施策ア①再生可能エネルギーの活用のところですが、内容の書きぶりが他と比べてちょっと違和感があります。もうちょっと簡単でもいいのかな。地域防災計画の説明なんですけど。ここだけ他に事業に比べてやけに詳しく書かれている気がしたので、内容の書き方を工夫した方がいいし、他のものに合わせるならもっと簡略化してもいいのかなと思いました。

猿田会長 そこは他と調整しないと何とも言えないかな。

戸川補佐 ここは総合防災課と調整した結果ですので、ちょっと削れないと思います。

猿田会長 私からいくつか。P6からエネルギーの変遷について、他の自治体ではあまりこういう書き方をしていないので、参考になる分かりやすい内容ですね。これを読めば日本のエネルギー政策がどういう風になっているかよく分かるので結構なことだと思います。まずP6、下から12行目のところの「気候変動枠組条約締約国会議」（以下COPという）とありますが、これ他の会議でも使われたんだよね。生物多様性でも。これでいいのかなという感じもするんだが。どうなんだろうね。

亀山委員 最初のカギカッコが閉じたあとの「に基づく、」の点はいらなくなり、「気候変動に関する国際連合枠組条約」に基づく締約国会議（以下、COPという）となるのではないですか。

猿田会長 COPの三文字でいいですか。他にもいろいろな締約国会議があるんですが、地球温暖化だけのCOPじゃないわけです。COPという表現は。

亀山委員 この文章の中ではそれをCOPと書いていますと定義しているのでいいかなと。

猿田会長 そうですね。次にP7のパリ協定のところに、かぎカッコを付けてください。

それからP10下から3行目に「2倍程度」とありますね。2倍程度の導入拡大となる再エネの最大限の導入って、わかりづらくないですか。

澁谷職員 2倍程度に拡大することが再エネの最大限の導入だという意味ですが、わかりづらいですね。

猿田会長 表現を工夫してください。P11の下から5行目にパリ協定があるから鍵カッコつけてください。それからP13下から2段目「鎌倉市エネルギー条例に基づき・・・」とあるでしょう。平成25年度には鎌倉市エネルギー基本計画とあるけど、ここもかぎカッコ付けたほうがいいかと思う。計画書とか作る時のルールです。そういうものについて法律もそうですが、一般論としてかっこで明確にしておくのが普通です。文書の中で活字並べるのではなく、法律とか計画を明確にするという意味で一般的に使われるのでどうでしょうか。私の考えですが。わたしはそういう風に指導してきました。それからP19、一番下の段落ですが、「これに対し」ということは、アンチ的な要素が入って来るのかと思ってしまうのだが、ここで「これに対し」という表現は疑問に思ったので工夫してください。P32②住居の種類のところ。黒丸の一番上と二番目以降少しダブっていますね。パーセンテージの同じものが何回も出てくる。同じものが何回も出てくるので、そ

れだったら神奈川県と比較したものでいいのでは。その辺を整理してみてください。鎌倉を特徴付けたいなら構わないけれど。数値的なものがダブっていますね。P71のグラフの上のところ「本市の主要な地域エネルギー源として、さらに太陽光発電の量的拡大が期待できます。」とあるけれどもこれは③と④の関係を言っている訳ですか。P70の③と④の関係を。④の文章の中に③の文章の内容が関係しているのですか。

澁谷職員 そうですね。流れとして。

猿田会長 じゃあいいですね。次にP73ウ①「環境省報告書では」ってありますね。これは（以下「環境省報告書という」。）とどこかに書いてありますか。P67ですか。

澁谷職員 そうです。

猿田会長 P83（2）イ地域密着型発電会社のところに「その地域に限定して供給する」とありますが、限定するとは、地産地消ということですか。

澁谷職員 具体的な説明だと、自分で小売りはやっていないのですが、うちで作った電気分は自分の市内で売ってくださいよと約束をして電力を発電しているような事業者が実際ありますので、そういうのを説明しようとする表現です。

猿田会長 実態はどこの電気使っているか分からない。極端に言えば九州の電力をサイクルを変換して使っているかもしれない。ここの限定としてという表現は誤解を招く。再生可能エネルギーとして何か作りました。それは村の中でしか使いません。そういうことはありますよね。特に途上国などはそうやって太陽光発電でやっています。そういうことが可能な形もあるけれども今の電線を使っている限り限定をしてというのは、購入者を限定してというなら分かりますが、電気を限定することは出来ないわけで、私はあそこの会社の電気を買いました。電気はどこのでもいいけれど、そこの電気を使うという意識で使います。という意味での限定ならいいのですけれど。その辺を皆さんが理解してくださるかどうか。ある事業者が発電した電気を買いましょう。実際に来る電気はどこのものかはわからない。電線に乗ってしまえば、潮流に乗ってしまえばわからない。特別に配線すれば別ですよ。今、それは認めていないから。誤解を招かないように表現を工夫してください。どこの電気を使っている、契約は今、別だから。去年の4月1日からどこでも供給できる。極端に言えば鎌倉で中部電力と契約できる。次にP83エの公園における植木剪定材の自家発電のところですが、シャワーがあるような公園はたくさんあるのですか。

澁谷職員 運動公園があるような公園です。

猿田会長 あるならいいです。次にP98の上の説明って、こういう風に「記載しました。」と出てくるのは、ここだけではないですか。敢えて何故「記載しました。」とするのですか。計画だから書くのは当たり前なので。「内容をまとめました。」とするならわかりますが。直せるなら直してください。以上です。

猿田会長 それでは次に「パブリックコメントの結果について」事務局から説明をお願いします。

戸川補佐 「パブリックコメントの結果について」説明。

猿田会長 ただいまの説明についてご質問、ご意見はございますか。

池貝委員 P114にガスコージェネのコラムも掲載されてとてもいいと思いますが、これを挿入する位置は、「低炭素まちづくりに向けたハード整備」の基本施策イの後の方がいいと思います。今は「エネルギー環境教育の推進」の後にありますけど。

澁谷職員 調整いたします。

山本委員 用語の説明についてですが、短いものでしたらその場で書いていただいたほうがすぐわかるので、ページ脚注にすればいいと思います。最後までめくってもそれが載っているかどうかわからない。それを探すのも面倒ですので、短いものだったら下の方が分かりやすいので、その方がいいと思います。

戸川補佐 用語の説明については巻末にあるということが本文中にわかるような印をつけるなど対応して、さらに短く説明できるものについてはかつこで言い換えるとか工夫して行きたいと思います。

猿田会長 グラフなどで使う言葉だったら注釈にちょっと書くことがあるかもしれないですが、あっちにもありますこっちにもありますだと区別がね、工夫してください。

郷原委員 やはりわからない語彙というか言葉が増えてきているので、巻末の語彙説明のところを集約し、こんな言葉が出てきたんだとわかるような巻末説明があった方がいいのかなと思います。ガスコージェネレーションはコラムができ上がってきてから内容を見ますが、私では全然わからない。巻末にそういうのがあったら、こんなこともできたんだと理解して、本文の内容を読めるのかな。皆さんはご理解されているんだろうけれど、新しい言葉が出すぎていてイメージでしか捉えていないので、それがあっているか、あっていないかも確かめようもないような状況ですので。

猿田会長 いま盛んにコージェネは使われるようになった言葉だから、理解していただいた方がいいと思うけどね。

川口委員 事前の配布資料のP107⑩ですが、深沢とか大船に大規模開発の話があり、それにとまって⑩のところにも関係すると思うのですが、一定規模以上の建築物とっているのは、開発的なものもあるでしょうが、最近大型マンションで300戸規模のものが出てきたりとか、住宅でそういうものが増えてきています。それに関して事業規模に応じた省エネ施策が欲しいなと思い、工夫して頂けたらと思います。建築物というと住宅も含まれているのですが、イメージするものは深沢の大規模開発の方だと思われるので、大規模マンションについても含めるような表現にしていきたい。また、「省エネ施行」の「行」の字は、「工事」の「工」の字が正しいと思います。

戸川補佐 「行」の字は直します。また、今のお話頂きました一定規模以上というのは現在条例では500平米以上の開発で住宅が6戸以上あるような場合は太陽光パネルの設置をお願いしておりまして、300戸以上のマンションになれば間違いなく設置をお願いします。このお願いは必ずしも太陽光パネルに限るものではないのですが、太陽光パネルの場合は、戸数が増えるごとに出力を大きくしていってもらうような仕組みになってい

ます。

川口委員 定義があるのでしたら、記載したほうがより親切だと思います。

猿田会長 資料1- (1) -2 P3の18は、P101①低公害車等の導入促進に対する意見ですね。

「製造から廃車までの環境負荷が、走行距離や使用頻度によって変化し・・・」とありますが、これはライフサイクルアセスメントですね。今行われている製造から廃棄までの環境への影響を調べたライフサイクルを調べたもので、電気自動車ではなくて、他のものを使えば二酸化炭素がもっと出るのだからさらに増えますね。意味が別ですね。この方は環境負荷について言っていますが、ガソリン車で同じ距離を走っていたら、排気ガスが大量に出る。電気自動車は出ないし、燃料電池車なら水しか出ないわけだから、環境負荷が小さいわけですから。作ったときから行けばどちらもエネルギーを使っている、トータルでやった場合どちらがいいかということで、そのものを明記するべきというけれども、これは明記ができません。

澁谷職員 ライフサイクルアセスメントに関するような事項はほとんど触れられていないのですが、一応オフィシャルで電気自動車を製造しているメーカーが出している所で、ガソリン車より製造時にでるCO2の量は多いと製造メーカーも認めているところです。

猿田会長 ライフサイクルで見れば全然違います。

澁谷職員 そういう見方もあるよということです。

猿田会長 ライフサイクルで見る見方の方が大事であって、電気自動車、低公害車が認定されているのはそこなんです。製造時だけを比較して云々したらそれは勝てないかもしれないが、そうじゃない。車は走るためにあるのであって展示物じゃない。走った中でいわゆる一生の間に廃車になるまで走ったらどうかという、ライフサイクルアセスメントやってみれば完全に違うわけです。その辺をきちんと分かるように書くんなら書いてください。電気自動車が悪いなんて書かれたらたまらない。何のために低公害車の普及を図っているのか、これは日本に限らずどこの国でも対応しているのだから、その辺もわきまえてライフサイクルで考えないといけない。ほかに何かご質問ございますか。なければ事務局の説明をお願いします。

戸川補佐 本日頂いたご意見に係る修正についての最終確認は、会長一任でよいでしょうか。

委員一同 異議なし。

戸川補佐 それでは、会長と相談して修正を行います。

議題2 「その他」について

猿田会長 それでは、次の「その他」に移らせていただきます。では、事務局から説明をお願いします。

事務局 議題3「その他について」説明。

猿田会長 それでは、来年度については、日程が決まりましたらご通知させていただきますので、引き続きよろしくをお願いします。

以上で本日の議事を終了しましたので、閉会といたします。